

目標の設定及び達成に向けた考え方について(区作成)

【旭区】(受託者等:地域運営アドバイザー業務非常勤嘱託職員)

		区の考え方等
1 地域課題・ニーズ等の状況について		平成27年推計の65歳以上の人口比率が29.8%(24区中4番目)と高齢化が進んでおり、災害時に支援が必要な区民への対応が求められている。 近年、25歳から39歳台の人口減少が顕著で担税力のある世代が減っているため、賑い創出や地域活性化に不可欠な若い世代の定住促進が望まれている。
2 当事業によりめざす状態	校区等地域において、各種地域団体等の多様な主体が、地域社会の将来像を共有しながらそれぞれ特性を發揮し、校区等地域におけるさまざまな地域課題の解決に取り組めるような状態	【現在の状況】 ・達成:概ね3地域
3 当事業の目標		
(1) 中長期の目標	(ア) 自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)の第3ステージの各項目のうち、6項目を達成	【現在の状況】 ・達成:概ね3地域 未達成:7地域
	(イ) 校区等地域において、様々な活動主体が協働し、その話し合いのもと合意を形成し自ら地域課題の解決に取り組むなど、地域が自律的に運営されていると感じている割合 60%以上	【現在の状況】 まちづくりセンターの支援により、皆さんの地域において、支援を受ける前よりも自律的な地域運営に取り組んでいると思いますか。(問4) 42.9%(①そう思う 10.9% + ②ややそう思う 32.0%)
	(ウ) 地域活動協議会が課題やニーズに応じて支援を受けていると感じている割合78%以上	【現在の状況】 まちづくりセンターの支援は、地域の皆さんの活動に役に立ちましたか。(問1) 62.6%(①そう思う 11.5% + ②ややそう思う 51.1%)
(2) 平成30年度目標		
ア 「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」	形成済の全地域活動協議会について、ステージ1・2の項目を全て達成の他、ステージ3の各項目のうち、3項目を達成	【現在の状況】 ・達成:概ね3地域 未達成:概ね7地域
イ 利用者アンケート調査		
(ア) 自律的な地域運営	校区等地域において、様々な活動主体が協働し、その話し合いのもと合意を形成し自ら地域課題の解決に取り組むなど、地域が自律的に運営されていると感じている割合 50%以上	【現在の状況】 まちづくりセンターの支援により、皆さんの地域において、支援を受ける前よりも自律的な地域運営に取り組んでいると思いますか。(問4) 42.9%(①そう思う 10.9% + ②ややそう思う 32.0%)
(イ) 中間支援組織の活用	地域活動協議会が課題やニーズに応じて支援を受けていると感じている割合75%以上	【現在の状況】 まちづくりセンターの支援は、地域の皆さんの活動に役に立ちましたか。(問1) 62.6%(①そう思う 11.5% + ②ややそう思う 51.1%)

	区の考え方等
4 地域活動協議会の状況についての分析 上記2・3の【現在の状況】及び評価資料等を踏まえ分析	<p>●各地域の成熟度にバラつきがあることから、支援する側とされる側にミスマッチが起こらないような対応が必要。【全地域】</p> <p>●地域課題やニーズに対応した活動(地域が自ら変わろうとする動き)が見受けられるので、その先の地域ビジョンの共有まで取組みが進むような支援が必要。【9地域】</p> <p>●自主財源の確保について、7地域で具体的な取組みの実施及び検討が進んでいる(コミュニティ回収について、3地域が実施済み。4地域が検討中。)が、その他の地域についても、検討の場を設けていく必要がある。【3地域】</p> <p>●担い手拡大のための具体的な取組みが必要。【全地域】</p> <p>●他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような具体的な取組みが必要。【全地域】</p>
5 当事業による支援の方針	<p>●全地域の総会(4～6月)に参加し、支援メニューアンケートを実施し、地域が求める支援ニーズの把握に努めると共に、改選に伴う新任役員等に地域活動協議会の意義について、再度説明を行う。</p> <p>●地域カルテワークショップを開催(4～3月)する中で、地域課題の共有と、ニーズに対応した活動が更に実施できるよう支援すると共に、地域ビジョンの共有に取り組む。</p> <p>●自己財源の確保のための取組み(コミュニティ回収の実施及び民間助成金の活用など)について、他区や他地域の事例提供及び説明会の開催(4～3月)。</p> <p>●「担い手の確保」については、各地域でフレームワーク方式のワークショップ(7～10月)を展開し、議論の場を設け、具体的な取組みに繋がるよう、また他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むよう取り組む。</p>
6 目標達成に向けた戦略	<p>●支援メニューアンケートを実施することで、各地域の支援ニーズを把握し、地域と行政の間で課題認識を共有することで、ワークショップへの意欲に繋げていく。</p> <p>●地域カルテワークショップを開催する中で、地域の成熟度に応じて、「地域資源」「地域データ」「事業見直し」「地域課題」「地域コンセプト」等をテーマに段階的に話し合いを行い、地域ビジョンの共有に繋げていく。</p> <p>●地域資源が有効に活用され、継続的に自己財源の確保が行われる仕組みを構築していく。</p> <p>●「担い手の確保」についてのワークショップを開催し、外部との連携・協働を促しながら、新たな担い手が参画しやすい組織づくりを構築する。</p>